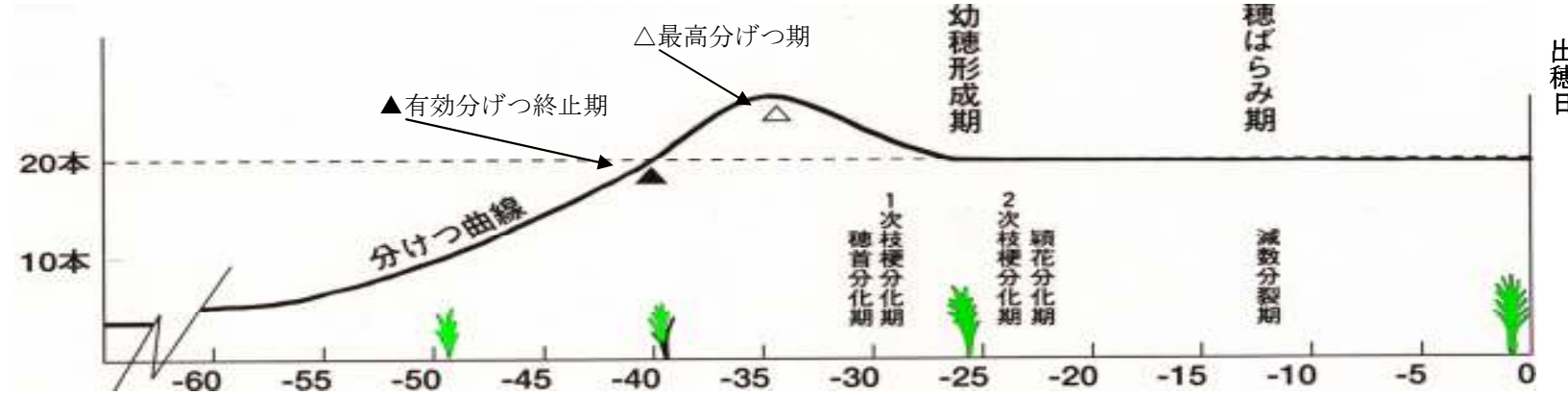


# カルテック農法 山田錦栽培の基準

## 微生物・カルシウム利用の酒米作り



(10アール当たり)

**山田錦**

- \* 山田穂×短稈渡船
- \* 兵庫県農試
- \* 1936年育成

**特性**

- \* 極良質の酒造米。
- \* 倒伏、耐肥性に弱い。

**栽培上の注意**

- \* 倒伏、イモチ病の徹底対策。
- \* 施肥・水管理の注意。
- \* 病害虫に弱いので適切な防除

生育相	田植え	出穂50日前	出穂35日前	出穂25日前	出穂10日前	出穂	出穂後
生育予定日	6月15日頃	7月12日頃	7月27日頃	8月8日頃	8月23日頃	9月2日頃	<注意> 予定日は出穂日から逆算して下さい。
作業内容	自圃場						
資材	<b>地力づくり</b> ラクトバチルス 400g 硫安 10kg カルテックCa粒状 2袋	[分けつ肥] 硫安 5~15kg	[つなぎ肥]	[穂肥] 尿素 4~5kg	[登熟促進資材] カルテックCa粒状 2袋	出穂日とは圃場全体の稲が40~50%出穂した時です。	* <b>カルテックCa液状</b> * <b>メガデルトン・ネオスリー</b> 葉面散布するときわめて効果的です。
管理作業	● <b>ラクトバチルス</b> 400g と硫安 10kg をよく混合して生ワラ・モミガラ・その他の有機物の上に散布後、一緒に鋤込む。 <u>出来るだけ年内に鋤込む。</u> (カルテックCa粒状は同時期に鋤込むか代かきの水を張る前迄に鋤込む。) ※石灰窒素・ケイカル・ようりん等の副資材は使用しないで下さい。	● <b>地力づくりの資材のみで他は一切使用しない。</b> ● 株間は出来るだけ広く。 ● 1株の植え込み本数は出来るだけ少なく。2~3本が好ましい。	● 目安として1株が 9本以下の時は 15kg 10~13本の時は 10kg 14本以上の時は 5kg ● 硫安を散布する時は、水を多目に張って散布します。 ● 20本以上の場合は、硫安は不要であり、この時に葉色が濃い場合は、200gの <b>ラクトバチルス</b> を土に混ぜて(泥団子にして)与えます。	● -50日に分けつがとれて硫安が与えられず、この時期に色が褪めてきた場合は、硫安5kg程度を与えます。 この頃、必ず溝切り実施。穂肥前、必要があれば中干し小ヒビが入る程度とし、すぐに水を張る。	● 葉色により量を加減します。 ● 砂質土壌の場合は尿素を500g多めに <b>ラクトバチルス</b> 100gと混合して散布。 ● 尿素を散布する時は多少、水を多目に張って散布する。	● <b>品質向上に重要</b> ● イモチがついたり、倒伏の恐れがある場合は、更に1~2袋増量する。 ● <b>カルテックCa粒状</b> を散布する時は、足跡に水がある程度で散布する。	● 開花期は色が褪めていても良い。交配能力が高まる。 ● 葉色が薄く、秋落ちの心配がある田では、 <b>カルテックCa液状</b> ● 葉色が濃くイモチの心配がある田では、 <b>メガデルトン・ネオスリー</b> ※どちらも500倍で10アール当り100~150リットルを葉面散布
施肥の目安	この欄の葉色とはカラスケールによる葉色番号のことです。	育苗時 <b>健苗くんセツト</b> を使用して根張りと活着を促進させる。	葉色3~4が適度であり5以上はチッソが多目。	葉色3~4が適度 葉色3で尿素5kg 葉色4で尿素4kg	状況によりイモチ病、もんがれ病、二化メイチュウ、カメムシ等の予防をする。		